つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく

ほうぷ

NPO法人
地域生活サポートネット

Ｎｏ．75
2023 年 1 月発行

あけまして　おめでとうございます。

昨年はお世話になりありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「楽童ほうぷ」を始めて丸９年が経ち、「相談支援ほうぷ」で障害児相談支援を開始して３年目です。今年１月からは、「ヘルプセンターほうぷ」（居宅介護、重度訪問介護、移動支援）を開始します。当法人は設立して２０年目を迎えます。ボランティア活動を続けた１０年間、福祉サービスを始めて１０年目、来年は設立２０周年です。ただ、それも通過点です。子どもたちにとっても、入学や卒業・進学の節目は、通過点に過ぎないのかもしれません。けれど、子どもたちは、未来のために今を生きているわけではありません。いつも大切なことは、「今、生きてココにいること」。ほうぷも「今」を大切に、「ココに」在り続けたいと思います。

本年がよい年となりますように ！

２０２３新春　スタッフのつぶやき

６年ほど前だったか、篠田桃紅展で、一本の線からキリリとした空気と人生の重みとを感じた時のことを今でも思い出します。「逃げも隠れも一切できない　どこにも誰にも責任をなすりつけることができない」、「あなたの人生も、一本の線」、そんなふうに潔く生きていければと思いました。けれど、社会の中にある「線」には、抵抗し続けてきました。重度の障害をもつ娘を出産して、線引きをされて分けること・分けられることに敏感になったからかもしれません。だから、線を引くことにも、線で囲った枠の中に閉じ込めることにも抵抗を感じてきました。

楽童ほうぷが、地域とのつながりを大切にしていることも、線を作りたくない、囲いたくないと思ったことが根底にあるのかもしれません。確かに放課後等デイサービスは、福祉サービスによって線引きされた施設です。でも、その線を太くはしたくないと思いました。囲われた空間の中で作為的な設定の療育ではなく、日々、自由な遊びや空間のなかで子どもたちの成長を見守っていることも、出発点は同じなのかもしれません。学齢期の子どもたちですから、社会の一角で、いろいろなできごとが起きる中で、体験を重ねていくことが、生きる力を育てていくことにつながると思ってきました。

ほうぷ独自の「こどもＩＬＰ」もそれを意識しながら実践してきたつもりです。指導や訓練とは異なります。体験の場や機会は作りますが、何かをさせようと到達すべき目標を設定して取り組もうとはしていません。また、日々の活動も、職員は何気に遊ぶ中で、それぞれのこどもに必要なサポートをしていきます。そのために、職員たちは研修だけではなく、日々、振り返り、試行錯誤し、話し合っています。それがほうぷの強みだと思っています。

子ども一人ひとりの「今」に向き合い、同時に、社会の中の線に疑問を持ち行動していくことが、私たちの仕事だと思っています。制度のこともするけれど、制度になくても必要なものは創っていく、そんな活動をしていきたいと思い続けています。

向井　裕子

昨年からほうぷに就職しました。初めて取り組むことばかりで分からないことも多いのですが、先輩方に助けてもらいながら日々勉強していける環境がとてもありがたいです。

言葉にすると上手く表現できないのですが、一緒に遊んでいると「何それ？」と言いたくなるような、多くの不思議な遊びや言葉が子ども達から飛び出します。同じおもちゃを使うにしても、その子ならでは遊び方があったり、ストーリーが出来上がったり、遊びの中で「その子らしさ」が見えてくる瞬間が見ていてとても面白いです。遊びも「その子らしさ」も毎日どんどん更新されるので、毎日飽きることがありません。

子ども達と楽しく時間を過ごしていたら、働き始めてもう１年が経とうとしていて、文章を書きながら「え！？早くない！？」と驚いています。あっという間に過ぎていく時間の中で、子ども達の「その子らしさ」をどんどん見つけていき、成長を見守っていきたいと思います。

これからも、子ども達と一緒に毎日楽しく過ごせますように。

中村 里穂

私は、ほうぷに来る前は、学童保育で１０年ぐらい働いていました。その時の子どもが、放課後デイサービスを利用していて、保護者の方とお話していると私もそういうところで働いてみたいなと思うようになりました。

ほうぷで働いていると、他のスタッフの子どもの関わり方を見ることでとても勉強になります。困った時は相談すると一緒に考えてくれたり、褒めてもらえたり、ほうぷで働くのは楽しいなと思います。

ほうぷにはいろんなイベントがあります。準備は大変だけど、当日子どもたちが楽しそうに過ごしている様子を見ていると元気になります。私が一番好きなイベントは、ほうぷ商店です。子どもたちの絵を、プラバンキーホルダーやしおりにして、販売しました。子どもたちが自分で作った商品を接客して売って喜んでいる姿をみると、もっと色々作りたいと創作意欲が湧いてきて楽しくなります。

これからも、いろんなことを楽しみながら働いていきたいと思います。

西井 理恵

ほうぷでの仕事に就いて、３年半以上が経ちました。ここ１年程は社会福祉士資格取得に向けて通信課程の受講を続けてきました。もうすぐ本試験ということで少し緊張気味です。さてこの期間、コロナ騒動が続きほうぷの活動にも外出イベントや感染対策等、様々な制約が出てくる中、皆で話し合いながら活動を作ってきました。子ども達の体験を細らせないように、という点で職員の方向性は一致していましたし、地域の方の助力もいただきながら出来る限りの工夫を重ねてくることができたように思います。

その中でも特に、話し合い活動や発表会など、子どもが主体になる活動を大切にしてきました。しかし、まだまだ子どもが主体性を発揮できる余地は多くあると思います。大人が担う必要のある部分、子どもに任せられる部分の見極めをしながら、より実りのある活動を探っていくことを目標に今後も取り組んでいきたいと思います。

新井　裕也

ほうぷにきてはや２年半。福祉施設で作られた商品に興味を持ち始めている今日この頃。もともと障害者入所施設で働いており、その時から素敵な絵に触れる機会が多く、それを上手くいかせたらなと思ってはいました。ですが、当時は絵を消しゴムハンコにするのが精いっぱい。そして最近はおしゃれな商品をみては「こんなんしたいなぁ」という気持ちがむくむく湧き上がってきています。そんな中、ほうぷ商店で子どもたちの作品を実際に商品にしたところ、保護者さんや学校の先生などが手に取ってくれる姿をみて、継続してやっていきたいと考えています。

子どもたちの絵を唯一無二のアート作品として売り出すことができればきっと楽しい、そんでもってお金儲け…いやいや、収益の一部は子どもたちのお給料として、残りはほうぷの活動資金にあてることができればより充実した活動が送れるのではないかと考えています。

商品化したあかつきにはぜひ皆さんお買い求めください。目指せヘラルボニー！

浦平佳代子

昨年の秋、家族で和歌山旅行に行ってきました。黒潮市場で海鮮丼を食べたり、まだ1歳にも満たない甥っ子と海で泳いでいる魚を眺めたり、久しぶりに旅館の温泉につかってくつろいだり、天気も良く和やかな旅行でした。

ほうぷに勤めて早７年が経ちました。ほうぷに就職した当時小５だった子どもが、今高３になって「もう今年でほうぷ卒業だね。」なんて話したり、古民家(？)ほうぷ、マンションほうぷ、新築ほうぷと建物の変遷も見てきて、この文章を書きながら色んな出来事があったなと、思い出にふけっています。２０２２年は、ほうぷのイベントとして初の試み、〈ほうぷ商店（駄菓子屋さんと紙芝居)〉を開催しました。ゼロベースで一からの準備は大変でしたが、近所の小学生が買いに来てくれたり、保護者同士が自然と交流できる機会になったり、学校の先生も忙しい間を縫って来てくれたり、まだまだ改善点はありますが、子ども・保護者・学校・地域がつながり合える場を作れているのかなと手応えを感じることができました。お仕事がんばっているほうぷの子どもたちの姿も素敵でした。

年明け１月からは新事業が始まり、しばらくはほうぷ全体がてんやわんやな日々になりそうな予感がしていますが、楽しむ気持ちを忘れずに、ぼちぼちやっていけたらいいなと思っています。２０２３年もほうぷの子どもたちと元気で楽しい１年が過ごすことができますように。

笹尾 美友季

連絡帳を書くときに、少しだけ困ることがあります。それは、目の前の子どもたちが即興で生み出す名もなき遊びをどう表現したらよいかと思案し、そのいきいきとした姿を表現するのにしっくりくる言葉が見つからないときです。

「かくれんぼ」「おにごっこ」「バドミントン」「おままごと」など、名前がついている遊び、ルールが決まっている遊びは親御さんにもイメージがすぐに伝わります。しかし、その場限りの思いつきで生まれるような遊びは、子どもが何をしていて、どんなことを楽しんでいるのか、細かく描写しようとしても、なかなかうまくいきません。言葉で表現しようとしても、今まさに遊びに夢中な子どものこころの風景は、行間からこぼれ落ちていきます。仕方ないこととはいえ、いつももどかしく感じます。

名もなき遊びに夢中になっているときこそ、その子らしさが思う存分発揮されています。あらかじめルールや遊び方が決まっている遊びではなく、その子の独自の感性、ユーモア、想像力がなければ生まれえない遊び。それは、今ここで、世界にたった一人の〈わたし〉が生きているんだ！という生命活動の端的な表現にも感じられ、その姿に立ち会えていることの贅沢さをしみじみと味わうひとときでもあります。そんなささやかな日常のひとときの積み重ねが、〈わたし〉の輪郭を確かなものとしてかたちづくっていくのでしょう。だからこそ、親御さんにその感動が伝わらないのが、うーん……もどかしい！

２０２３年も、子どもたちが〈わたし〉をつくる営みに、たくさん立ち会えますように。

渡邊　充佳

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

昨年３月からスタートした駄菓子屋＆雑貨販売の地域交流イベント「ほうぷ商店」が、地域のみなさん、とくに地元の小学生に好評です。１１月には３回目を実施し、すっかり常連さんになった小学生たちが、思い思いの駄菓子を買って、他愛のない会話を交わしながらテラスでたまっている姿を見ると、こういう何でもないひとときが子どもたちにとって大切な時間なんだと考えさせられました。楽童ほうぷのメンバーにとっても、自分に与えられたお仕事（役割）を果たすことで、お客さんから喜んでもらえる体験となり、最後は自分たちも好きな駄菓子が買えるとあって、モチベーションが高いです。

また、１１月の「ほうぷ商店」では、地域で求められる「子どもの居場所」について地元の子どもの声を集めるため、「こんな場所があったらいいなぁ」シールアンケートを実施しました。回答してくれた子どもたちは、ふだんから近所の公園で見かける活発な子ばかりですが、それでもまだまだ遊び足りない、もっと日々の生活で満足感を得たいという声が聞こえてくるようなアンケート結果だと感じました。これからの活動にどう生かしていくか、思案のしどころです。

秋のほうぷ商店

１１月１２日（土）　参加者：子ども１５名　ボランティア３名

地元小学生のあいだでは認知度が高まっており、「またやるんや！」「みんなで行きます！」など嬉しい反応をもらいました。友だち同士で誘い合ってきた小学生グループに加え、小学校の先生方も遊びに来てくださいました。また、通りすがりの人が関心をもって立ち寄ってくださることもありました。絵本・紙芝居タイムには、未就学の親子連れの姿もみられました。地域に根付いた活動になってきていることを嬉しく思います。

グループワーク

１１月　５日（土）　参加者：子ども１０名
１２月１０日（土）　参加者：子ども　９名

１１月は「クリスマス会でしたいこと」、１２月は「好きな手触り・肌触りの布はどれ？」「冬といえば鍋、好きな鍋メニューはどれ？」というテーマで発表してもらいました。今年１月からは小グループに分かれての「こど

も会議」方式でグループワークをリニューアルします。

大学生ボランティアによる音楽会

１１月１９日（土）　参加者：子ども１３名　ボランティア３名
１２月　３日（土）　参加者：子ども１１名　ボランティア３名

武庫川女子大学音楽学部の学生有志による音楽会を開催しました。身体活動・歌唱・鑑賞などの多様な活動を取り入れたプログラムです。１１月は「紅葉」、１２月は「あわてんぼうのサンタクロース」と、季節に合わせた曲で楽器遊びをしました。子どもたちから曲のリクエストも聴きながらプログラムに反映していきたいとのことで、今後も楽しみです。

秋の遠足＠大阪くらしの今昔館

１１月２６日（土）　参加者：子ども１３名　ボランティア６名

久しぶりに公共交通機関（電車）を利用して遠足に出かけました。行き先は「大阪くらしの今昔館」です。江戸時代の大阪の町並みを実物大で再現したエリア、近代化以降の町並みの変化をたどるジオラマ展示や、開発初期の家電製品の実物展示など、タイムスリップしたかのような体験を楽しみました。

大学に遊びに行こう！

１２月１７日（土）　参加者：子ども１３名

大阪経済大学ボランティア部の皆さんから、「イベントをするので、遊びに来ませんか？」とお誘いを受け、電車に乗って大阪経済大学までお出かけしました。学内スタンプラリーやたこ焼き屋台の企画などを考えてくださり、スタンプエリアに設けられたクイズやゲームコーナーを楽しみました。スタンプラリー後は、学生さんが用意してくれたたこ焼きをもりもり食べました。最後に、大学のマスコットキャラクター「はてニャン」と記念撮影しました。

クリスマス会

１２月２４日（土）　参加者：子ども１５名　ボランティア３名

子ども有志によるステージ発表（第１部）、人形劇動画のお披露目会（第２部）、大阪経済大学ボランティア部のみなさんによるお楽しみビンゴ大会（第３部）の３部構成で、盛りだくさんの内容でした。３年ぶりに、ご家族も一緒に参加していただけ

るようにしました。ステージ発表では、クリスマス会での発表が今回で最後となる高校３年メンバーが主役の創作劇に、小学１年生のピアノ演奏に、初めてのヒーローショーに挑戦する小学生メンバーもいたりと、世代交代の波も感じました。

●法人内の活動報告●

10月27日(水)　旭区地域自立支援協議会事業所連絡会（児童）主催研修会受講
11月　1日(火)　子どもの居場所事業ニーズ調査 清水小学校からの聞き取り
11月　2日(水)　「子どもと権利：条約を日々の保育・教育の実践に生かすために」研修受講
11月　5日(土)　職員研修「身体拘束廃止・適正化に関するワークショップ」
11月　9日(水)　「子どもと労働：生活と労働から遠ざけられる子どもたち」研修受講
11月12日(土)　子どもの居場所事業ニーズ調査 地域の小学生からの野外アンケート調査
11月12日(土)　～12月1日 ４日間 新人職員研修　重度訪問介護従事者養成研修受講
11月15日(火)　子どもの居場所事業ニーズ調査 旭東中学校からの聞き取り
11月16日(水)　「子どもと発達：「できる・できない」をこえて～子どもたちは「いま」を生きる～」研修受講
11月26日(土)　保護者交流会の開催（30分ヨガ＋おしゃべりタイム）
11月28日(月)　子どもの居場所事業ニーズ調査 新森小路小学校からの聞き取り
11月30日(水)　「子どもと法制度：「こども基本法」「こども家庭庁」で何が変わるか」研修受講
12月　4日(日)　臨時総会の開催
12月　7日(水)　「子どもと「食」：食べることは生きること」研修受講
12月10日(土)　虐待防止委員会の開催

●地域活動報告●

11月16日(水)　旭区地域自立支援協議会 本会定例会（旭区役所）
　　和んで座談会実行委員会（旭区役所）
11月18日(金)　子ども情報研究センター理事会（オンライン）
11月21日(月)　旭区子育て安心ネットワーク会議（旭区民センター）
11月29日(火)　旭区地域自立支援協議会 こども部会（旭区役所）
12月　9日(金)　和んで座談会（旭区民センター）
12月18日(日)　おやこ ひろば ほうぷ「保育士さんとあそぼ～つくってあそぼ Part2～」（ほうぷ）
12月19日(月)　旭区清水地域子育てサロンクリスマス会（清水地域交流センター）
12月21日(水)　旭区地域自立支援協議会 相談支援部会（旭区役所）

2022年の年末は、仕事に追われて本当に慌ただしく、ついには「年賀状は正月に書く」と開き直りました。年々、体力も落ちてきたので、今年は、せめて月に一回の土曜日は休もうと思っています。達成できるかどうかは別として、宣言だけしておきます。法人の職員たちは若いのですが、社員（会員10名）の多くが還暦を超え、「体調に気をつけてゆっくりいこう」が合言葉のようになっているというのに、皆、定年退職をしても、なぜかハードスケジュールです。性分ですかね。自分から仕事や活動を作っている感じで、止まれない私たちです。
今年が皆さんにとって良い一年となりますことを願います。
寒さが厳しいです。くれぐれもお体に気をつけてください。　（む）